

治水神・禹王研究会誌

第11号

2024年4月1日

| | | | |
|----|--------------------------|-------------|------|
| 巻頭 | 能登半島地震と治水神・禹王研究会 | 植村 善博 | (1) |
| 論文 | 日本から見た『中国禹跡図(2022年版)』の意義 | 竹内 晶子・植村 善博 | (2) |
| | 神奈川県、文命用水と文命用水普通水利組合 | 植村 善博 | (8) |
| 報告 | 佐渡に二つ目の禹王遺跡 | 伊藤 廣之 | (15) |
| | 改修工事で消えた禹王遺跡 | 伊藤 廣之 | (19) |
| | 禹王遺跡レポート | | |
| | 1. 川越路開鑿之碑(静岡県) | 関口 康弘 | (22) |
| | 2. 宇治市虚竹禅師墓(京都府) | 辰己 眞知子 | (25) |
| | 3. 小西吉兵衛夫婦壽碑(兵庫県) | 諸留 幸弘 | (28) |
| | 4. 鍋谷池新築記念碑(兵庫県) | 諸留 幸弘 | (34) |
| | 5. 禹貢導山水大勢圖(広島県) | 山下 幸太郎 | (41) |
| | 6. 柴湯迫水神碑(鹿児島県) | 山下 幸太郎 | (46) |
| 書評 | 『日本禹王辞典』書評・新刊紹介 | 門田 誠一 | (50) |
| | | 香川 貴志 | (52) |
| | | 小松原 琢 | (55) |
| | | 徳安 浩明 | (57) |
| | | 片山 正彦 | (60) |
| 追悼 | 包末招顧問へ感謝を込めて | 山田 孝士 | (63) |
| | 岡部澄子さんとの出会い | 北原 峰樹 | (67) |
| | 日本禹王遺跡一覧 | | (69) |
| 会告 | 日本禹王遺跡認定基準について | | (75) |
| | 禹王遺跡のデータ引用ルールについて | | (76) |
| | 認定委員会について | | (76) |
| | 禹王遺跡と禹王文字遺物について | | (77) |
| 広告 | 株式会社サンアンドムーン(東京都) | | |
| | (株)日本心理技術センター(東京都) | | |
| | 古今書院(東京都) | | |
| | 松風庵 かねすえ(香川県 高松市) | | |
| | 万理姫とうふ(群馬県 片品村) | | |

執筆者

| | |
|-------|----------------------|
| 伊藤廣之 | 本会事務局・大阪歴史博物館副館長 |
| 植村善博 | 本会会長 佛教大学名誉教授 |
| 香川貴志 | 京都教育大学教授 |
| 片山正彦 | 本会会員 枚方市立枚方宿鍵屋資料館学芸員 |
| 門田誠一 | 佛教大学名誉教授 |
| 北原峰樹 | 本会理事 香川県立桜井高等学校教諭 |
| 小松原琢 | 産業技術総合研究所地質情報研究部門 |
| 関口康弘 | 本会副会長 足柄の歴史再発見クラブ |
| 竹内晶子 | 本会理事 西宮市役所市長室秘書課 |
| 辰己眞知子 | 本会会員 元大学講師 |
| 徳安浩明 | 本会会員 大和大学教授 |
| 諸留幸弘 | 本会会員 コンサルタント関西技術顧問 |
| 山下幸太郎 | 本会会員 郷土史家 |
| 山田孝士 | 本会会員 |

会員を募集しております。お近くの会員までお知らせください。

編集後記：昨年度から完全にリタイヤしたのを機に、また学生をしている。60 過ぎの手習いである。通うまでは若者の中にポツンと一人かな、と思っていたら結構リタイヤ組がいる。また働きながら通ってくるタフな方もいる。勿論、若者もいる。専攻は史学で日本近世史を中心に学んでいる。授業は史料を読み込んできての発表、論文講読とその批判、自分の研究テーマやその研究史の整理、はたまたアーカイブズ論と、毎日が目まぐるしい。授業は基本、発表と討論で、特に各自の研究テーマ発表については皆さん入念な準備をしてこられる。これについて授業の後半ではさまざまな指摘が飛ぶわけだが、批判もしながらも励ましあう、あたたかい雰囲気である。なれ合いではない研究の場がある。先生の叱咤激励も飛ぶ。こうして研究に必要なスキルと態度、作法を学んでいくのである。通ってみると、けっこう大変なのだが、存外楽しいものである。

治水神・禹王研究会誌 第 11 号

2024 年 4 月 1 日発行

| | |
|-------|---|
| 編集・発行 | 治水神・禹王研究会 |
| 編集責任者 | 関口康弘 〒250-0117 神奈川県南足柄市塚原 2624 |
| 発行責任者 | 植村善博 〒618-0091 京都府大山崎町円明寺脇山 1-131 |
| 印刷所 | サカワプリント 〒258-0026 神奈川県足柄上郡開成町延沢 1812 |